

1 学校づくりビジョンの重点への取組の評価

基盤 教職員の資質・能力の向上		4・③・2・1
方策	ビデオ研修方式による授業研究・分掌チームによる実施計画立案・自己評価の実施	
指標1	教師力(自己研鑽に関わる自己評価)≧80%	75%
指標2	教師力(授業づくりに関わる自己評価)≧85%	75%
<p>本校でも、教員の世代交代が進み、若手教員の占める割合が年々増えてきていることから、先輩教員から若手への伝達を強く意識する機会を持つとういうことを意識して、従来のように指導案検討から始まり、授業検討に至るまで先輩教員を含む小グループで、OJTを行う研究授業を若手の先生に実施してもらった。またビデオ撮影の代わりに、教職員全員がひとり1回は指導主事や、教育ADVの先生方に日常の授業を参観をしていただき、マンツーマンで指導をしていただく機会を持つようにした。</p> <p>成果として、昨年までのある意味個人任せの授業から、指導案検討の過程を通じて、若手は先輩のスキルや知識を吸収する機会となり、経験者層の教員にとってもあらためて人材を自分たちで育てていくという意識が高まった。また若手以外の教員にとっても自分たちの授業に対する見直しをすることができた。また昨年までは1年を通じて全体研修会が授業研究のみに終わっていたが、今年は全体研修会をほかのカテゴリーの学習会にあてることができた(特別支援、評価基準、規準確認など)。</p> <p>一方で、研修スタイルを変える過渡期でもあり、OJTの機会をねらったほど持つことができなかつたり、主眼とする授業づくりのテーマにもっと深く切り込む方策を立てていく必要がある。自己評価の数値が昨年よりも下がり、目標に到達しなかったのは、若手の先生方の成長の実感や、OJTのはたらきが今一歩不足していることを表していると考えてよいと思う。</p> <p>また授業づくりの重点が教科授業に傾きがちなので、道徳や総合的な学習の時間におけるなかまづくりの授業研究もやはり定期的にとりあげていく必要があるのでは、と指摘する声もある。</p>		

重点1 生きる力の向上		4・③・2・1
1 知(確かな学力)の向上		
① 授業満足度		
方策	一人ひとりの学びの保障の取組	
指標1	生徒アンケート問2(授業のわかりやすさ)≧70%	87%
② 学力(知識・活用)		
方策	授業における表現力と活用力を高める取組・組織的な学力底上げの取組・特別支援教育の充実	
指標1	CRT(2・3年生)得点率全国比≧108%	2年 104% 3年 103%
③ 読書冊数		
方策	図書室・学級図書の充実・学年通信での本の紹介・家庭への啓発	
指標1	年間読書冊数(生徒一人あたり)≧10	11月末・・・11.00冊
指標2	生徒アンケート問6(本を読むのが好き)≧60%	76%
<p>今年度、「学びあう生徒集団の育成」という研修テーマに沿って全職員が研究授業を実施した。2学期に行った研究授業では、実施に向けて指導案検討、当日はビデオ撮影を行い、大学教授や指導主事の助言を受けることができた。また基礎基本の定着をめざすために「富中タイム」を設け、学校全体で取り組んだ。</p> <p>指標1については、生徒主体の授業づくりを進めてきた成果であろうと思われるが、授業満足度の指標である「授業のわかりやすさ」の値は昨年より5%上がった。</p> <p>指標2については、昨年度の学年と比べるのではなく一つの学年を毎年追跡し、どのくらい力がついたかを検討していく方が有意義ではないかという意見が出た。今後、CRTの学力検査を継続して行うことができれば国語と数学については追跡可能になった。校内研修会等で情報を共有するとともに課題を克服するための方針や各教科の具体的な手立てを検討していく必要がある。</p> <p>指標4については、『朝の読書』の習慣から休み時間、昼食後など少しの時間を利用して読書に励む生徒の姿も見られる。生徒アンケートの「読書が好き」の値は昨年より上がった。ブックトークも3年目になり、各クラス・各学期に1回ずつ行うことができた。それをきっかけとして本を借りる生徒もみられるようになった。しかし学活での図書館利用は計画的に行わないと実施がむずかしく、全学年で実施できなかった。</p> <p>特別支援教育においては、生徒の実状に応じて、TTや居場所づくりなどの取組を進め、学力保障や生活支援などを行うことができた。</p>		

2 徳(豊かな人間性)の向上		
① 規範意識		
方策	生活規律の指導・学習マナーの指導	
指標1	生徒アンケート問8(学校の規則を守る)>=80%	85%
② 人権を尊重し行動する力		
方策	学級活動・道徳教育の充実・人権弁論大会を核とする人権教育の充実	
指標1	生徒アンケート問11(どんな理由があっても、いじめはいけないと思う)>=90%	90%
指標2	生徒アンケート問12(困っている人を助けようとする)>=80%	79%
③ 自己肯定感・自己有用感		
方策	職業体験学習・進路学習を核とするキャリア教育の充実・学校行事の充実	
指標1	生徒アンケート問13(自分によいところがある)>=70%	67%
<p>今年度、規範意識の高揚・学校生活環境の改善・生徒の自尊感情の高揚を目指して様々な取り組みを行ってきた。規範意識については、学校や地域において、服装の乱れや深夜徘徊など、指導を要する行動が少なからず見受けられる。学習マナーについては、各学年ともに学習規律の指導がしっかりと進められ、教師も早めに授業に向かうなど、一丸となって改善に取り組んでいる。数値目標には届いていないが、一定の成果を挙げているものと見做せる。</p> <p>人権感覚については、各学年ともに着実に高まっていると見做している。特に、人権フォーラムや校内発表会では、参加された地域の方々から好評をいただいた。しかし、2割以上の生徒は、困っている人に一歩が踏み出せない自分がある状況なので、積極的に働きかける力を身につけさせるための具体的な取り組みが必要となっている。</p> <p>自尊感情においては、数値目標の上では達成するには到っていない。ただ、今年の体育祭や文化祭は、例年ない盛り上がりという内外の評価を受けており、そのなかで生徒一人ひとりが様々な形で達成感を味わい、存在感を高めることができているように思う。今後も、学校全体を落ち着いていかせることで、誰にとっても安心して活動できる場を増やすことが、自己肯定感の向上には必要であると考えられる。</p>		
3 体(健康な心と体)の向上		
① 心の安定と体力		
方策	保健体育の授業の充実・スクールカウンセラーとの連携・心の安定のための情報発信	
指標1	新体力テスト得点偏差値>=51(女子)・50(男子)	44.9(女子)・48.0(男子)
指標2	出席率>=96%	96.5%
② 健康な生活習慣		
方策	健康に関する啓発活動・生活リズム向上推進	
指標1	生徒アンケート問14(朝食を毎日とっている)>=90%	88%
指標2	遅刻率<1.8%	1.5%
<p>今年度は体育の授業前にランニングを取り入れ、駅伝大会でも健闘するなど体力向上への機運も高まりつつある。新体力テストの得点数値に関しては、男子・女子ともに前年度よりやや改善したが、それでも目標達成にはいたらなかった。男子は目標値の全国平均に近づきつつあるが、女子が自分の力を充分に出そうとしない傾向はまだ見られる。</p> <p>出席率・遅刻率についてはともに目標値を達成したものの、2・3年生に不登校生徒が複数おり、出席率はやや低下した。遅刻率については、家庭状況でほぼ毎日遅れてくる生徒がいるなかで、全体としては大きく減らしている。時間を守る指導、生活リズムを守る指導が良い影響を与えていると思われる。また、SCとの連携も大幅に進んでいる。生徒・保護者・教師の長期にわたる個別面談、SCによる授業や清掃活動の観察などを通して、情報交換を密にしている。</p> <p>今年度は小学校栄養職員との連携した調理実習・食育講座を複数学年で企画した。朝食を毎日とる生徒の割合はアンケートでは昨年度よりわずかに増えたものの、目標とした90%には届かなかった(保健委員会調査では90%)。各家庭事情の問題ではあるが、今後も食育講座を継続するなど生徒・家庭への啓発活動が重要になってくると感じた。</p>		

重点2 開かれた学校		4・③・2・1
1 教育活動の公開		
方策	授業公開週間の実施・行事等の公開・通信の発行・お知らせボードの更新	89% 39127件
指標1	保護者質問紙問15(教育活動の公開)>=80%	
指標2	年間ホームページアクセス件数>=50000件	
2 家庭・地域との連携		
方策	学習習慣の確立・授業への学習支援ボランティアの参画・読書習慣の確立・健康な生活習慣の確立	88%
指標1	保護者質問紙問16(地域・保護者との連携)>=80%	
<p>・指標1 保護者質問紙調査「15学校は、授業や行事等の公開、懇談会の実施、通信や学校ホームページなどによって、十分に教育活動の公開を行っていると思いますか。」について肯定意見が89%で昨年度91%より2%減少している。</p> <p>・指標2 ホームページアクセス件数は12月16日現在33727件で昨年よりは低くなっている。トップページや各学年の更新は例年並みに努力している。無理のないレベルで教員みんなで更新していきたい。</p> <p>・指標3 保護者質問紙調査「16学校は、地域や保護者から意見を聞き、連携して教育活動に取り組んでいると思いますか。」について肯定意見が89%で昨年度79%より10%増加している。</p> <p>・授業公開週間を1学期と2学期に実施した。行事等の公開を行いたくさんの保護者に参観していただいた。体育祭のPTAテントを従来より1張り増やして満席になっていた。文化祭の参観は名簿に記名いただいた方が232名。記名しない保護者の方もみえたのでプラスアルファがあると思われる。学校公開日については日程調整の都合1学期が土曜日の1日開催であったが参観者は126名(参観者名簿記名者数)であった。休日開催にする効果は大きいと思われる。2学期の学校公開日は11月1日から3日間の平日公開をおこなったが41人であった。</p> <p>・富田浜通信(学校通信)・学年便り・各担当からの通信などを発行した。富田浜通信(学校通信)や学級通信についてはもっと発行してほしいというご意見をいただいた。これからの課題としていきたい。</p> <p>・お知らせボードについては、学校学年については迅速かつタイムリーな更新をめざした。</p> <p>・学校評価の実施と公表、「学校評価のための質問紙調査」における保護者からのご意見、ご質問、ご要望とそれらに対する回答の公表など、学校運営にかかわる情報の共有に努めた。</p> <p>・PTA、地域、学校教育支援ボランティアなどの連携は順調に進んでいる。学校花壇の栽培ボランティアの方、図書ボランティアの方には継続して支援をいただいている。新たな学校教育支援大学生ボランティアとして三重大学生の方に特別支援学級に来ていただき支援いただいた。また、音楽の授業に富田地域を含めての箏(こと)の演奏者の方にのべ21名協力いただいた。職業体験学習においては、地域の多くの事業所の協力を得ることができた。</p> <p>・本年度新たに富田地区防災訓練に生徒を参加させることができた。地域の方々からも、災害時における中学生の活躍につながると評価をいただいた。</p> <p>・プラスバンドは富田地区運動会、富田地区バザー、富田浜病院、四季の郷、富田小学校等への出張演奏で地域行事に積極</p> <p>・学校長もできる限り地域行事に参加して地域との連携に努めている。</p>		

重点3 安全・安心な学習環境		4・③・2・1
1 危機管理体制の強化		
方策	各種危機管理マニュアルの整備と徹底・対応後のフィードバック	85.7%
指標1	教職員アンケート(危機管理体制)>=80%	
2 施設設備の保守点検の徹底		
方策	整理整頓・安全点検の日常化	71.4%
指標1	教職員アンケート(施設設備)>=65%	
3 安全意識		
方策	避難訓練の実施・防災教室の実施・非行防止教室の実施・交通安全指導	3分26秒 24件(11月30日現在) 1件
指標1	避難(整列・点呼)完了までの所要時間<3分40秒	
指標2	けがの発生件数<年間40件	
指標3	不注意によるガラス破損件数<年間10件	
<p>3月の東日本大震災を教訓に『危機管理マニュアル』に津波災害を想定した対応を追加した。避難訓練については、第1回目は避難後の点呼に手間取ったものの、所要時間は目標タイムを上回る事ができた。第2回目は津波を想定した避難訓練で、初の試みであったが、スムーズに行うことができた。しかし、実際に津波が学校を襲った場合、また被害後の対応にはまだまだ検討を重ねていく必要がある。また、例年同様に夏季研修の中でAED研修を職員全員で行った。</p> <p>日常の安全点検については、昨年度より始めた『平成23年度富田中学校安全点検表』を、毎月初め、その点検表を回覧することで全職員に安全点検についての意識を高めるとともに、各担当で点検を行うというシステムを継続して実施した。日々の整頓については、改善は幾分されたものの、机上・ロッカーなど乱雑な部分が見られた。</p> <p>第1学年での防災教室・交通安全教室、また、安全委員会と全職員による交通安全指導も毎月実施することができた。</p>		

2 改善方針

【評価指標を活用したよりよい学校評価計画の策定】

・生徒アンケート及び保護者質問紙調査では、「わからない」の項目をなくしてある。毎年、数名の保護者から「回答できない」、「わからない」の項目を作るべきとの意見が寄せられている。肯定意見・否定意見の全体傾向をつかみ、例年と比較するために4段階を続けてきたが、学校の情報発信力を含めた、より正確な評価につなげるためにも、一度検討する必要があるように思われる。質問紙調査の記名・無記名の問題についても同様に「無記名にすべき」との意見が見られるが、責任ある意見と回答をめざして現在は記名でお願いしている。

・数値データを用いた成果指標から具体的方策を記した取組指標への移行がなかなか進まないなど、より望ましい指標のあり方について手探り状態が続いている。学校評価にかかる膨大な事務量もふくめ、よりシンプルな形に改善してゆくことが必要かと思われる。

【基盤 教職員の資質・能力の向上 のために】

・今年の方角性をさらに充実させて、指導案検討などを多用な経験層のグループで検討する機会を増やしていく。

・年間計画において、早めに教職員のニーズをリサーチして、より有用な学習の場とするように全体研修会を企画していく。

・日常の授業の中で相互参観ができるような機会を積極的につくる。また、教科以外の授業づくりにも若手が目を向けられるようにしていく。

【重点1 生きる力の向上 のために】

・知(確かな学力)の向上について

よりわかりやすい授業をめざし、校内研修を中心に授業改善を進めていく。指標を設定する際には、全国の数値を基準としてCRTの活用を継続し、一つの学年を毎年追跡するようにしていく。

学活での図書館利用は、学期初めに計画しておく必要がある。

・徳(豊かな人間性)の向上について

規範意識・学習マナーについては、教師側の意識をさらに高め、規範意識高揚・学校生活環境改善に向けた具体的取り組みを、妥協のないなかで根気強く継続していく。

人権意識については、まずは教師が日頃の言葉遣いや接し方を十分に振り返り、各自の人権意識を再確認する。そのうえで、生徒同士の関係をつぶさに観察し、人権侵害につながる言動を指摘・指導し、アサーティブな言動の習得を目指させる。

生徒の自尊感情については、教師が生徒一人ひとりの良い面や頑張りをほめたり、生徒の居場所をつくったりする実践や、生徒同士の「いいところ見つけ」などを通して自尊感情を育てていく。また、指標3については、身の回りの人が困っていることは何か、その中で自分達に出来ることはどのようなことかなどを具体的にイメージできるようにし、自分達に出来ることがたくさんあるという気持ちを持たせ、行動につなげられるようにする。

・体(健康な心と体)の向上について

体育の授業前に走ること・体づくりの運動を今後も続ける。駅伝や部活動など授業以外での体力アップへの意欲と運動量の底上げも呼びかけを継続してゆく。

SCとの連携は進んだものの、相談室の利用がまだ一部の生徒・保護者に限られる。年度当初の呼びかけだけでなく、たより等を使ってのより日常的な働きかけを今後さらに行なう必要がある。

朝食や生活リズムの指導については、学年単発の取り組みとせず、学校全体で、さらに小学校とも連携しての取り組み(学びの一体化)が大切に感じる。課題意識を共有しての取り組みを心がけたい。

【重点2 開かれた学校 について】

学校公開週間については現行のまま継続する。

各種の通信、学校ホームページのお知らせボードにおいて、生徒の学びの様子、学校の取組、保護者と連携して取り組みたいことなどについて、これまで以上に積極的に情報発信していく。

地域ボランティアについては地域へ協力をお願いを継続していく。

「読書、家庭学習、あいさつ、早寝早起き朝ご飯」等について協力の呼びかけを保護者に対してお願いし、学校と家庭の関係を強めていく。

【重点3 安全・安心な学習環境 について】

今年度改訂した『危機管理マニュアル』と『平成23年度富田中学校安全点検表』をさらに本校の実状に即したものにしていける。それらを活用して、校内の危機管理体制の強化・施設設備の保守点検の徹底をはかる。そして、緊急地震速報を取り入れた防災訓練企画運営と机上等の整理整頓を常に心がけていくように全職員に呼びかける。